



学校だより

# はくれい

白山市立白嶺小学校

白山市立白嶺中学校

臨時号

令和7年度全国学力・学習状況調査結果及び県基礎学力調査等の結果より

4月、小学4、6年生及び中学3年生対象に実施された各種調査の結果が公表されました。本校でも、今後の全学年の児童生徒に対する指導に生かして参ります。



## 小学校

【国語】:問題文を読み、条件に合わせて文章で答える問題の正答率が低かった。

→どの学年でも、説明したい事柄を条件に沿って簡潔に話したり書いたりする指導を継続します。

【算数】:計算方法は理解しているが、文章題を解く際に応用する力が弱かった。

→計算の正確さに加え、式や解き方を言葉で表す等、日常生活に対応させられるようにします。

:数量の関係を式で表したり、式を読み取ったりすることが苦手な児童がやや多かった。

→互いの考え方を説明し合う場を取り入れ、多様な考えに触れながら式で表す力を伸ばします。

【全教科共通】:級友との話し合いで、考えを深めたり、広げたりできている児童がやや少なかった。

→不明な点は問い合わせし、根拠や理由を明確に自分の考えを伝え、理解し合える力を鍛えます。

→互いの考えを深め合い、広げ合う良さを実感できる授業の振り返りの場面を設けます。

【家庭学習】:家庭においても自ら計画を立てて勉強をしていると答える児童がやや少なかった。

→どの子もわかる授業づくりを心がけ、家庭でも主体的に取り組む自学の指導を行います。



## 中学校

【国語】:図等の資料を用いた文章と違い、文字だけの文章を読み解く力は不十分であった。

→「考える作文」等、要約や意見文を書く機会を通して、条件を満たした表現の指導をします。

【社会】:資料をもとに考察したことを、適切に表現する力が弱かった。

→授業では、考えの根拠となる資料を提示して説明することを繰り返し指導します。

【数学】:記述問題では、正しく根拠を示しながら記述する力がやや弱かった。

→理由や根拠を沿えて、自分の考えを説明する場面を授業の中で増やしていきます。

【理科】:事象の解明のための発想はできるが正しく表現する力が弱かった。

→仮説を立てる上で、既習事項や経験からの根拠を表現できるように練習する場を設定します。

【英語】:会話を聴き、適切に応答する力や、文章を読み、話の概要や要点等を読み取る力が弱かった。

→即興的に既習表現を使った対話や、視点を絞って読み取る活動を多く取り入れます。



## 質問紙

【自己肯定感】:「自分にはよいところがある」「先生はよいところ認めてくれている」

「将来の夢や目標を持っている」「学校に行くのは楽しい」

といった項目は、いずれも上昇傾向にあった。



→自信を持って力を發揮し、頑張ることができるなど、自分を見つめ直す生徒指導を中心とした取組を今後も継続していきます。

【読育】:「読書はすきです」と答える児童生徒は少なかった。

→学校図書館を活用した授業や「わかった」「できた」を実感できる授業づくりに一層取り組みます。

【ジオ育】:「自然観察や自然体験を行っている」「自ら課題を立て、調べたことを発表している」

「プレゼンテーションを作成することができる」という問い合わせに肯定的な回答が多かった。

→保護者、地域ボランティア等のご理解とご協力により、自然に触れ、ふるさとに誇りを持つ心を育むジオ研修が行えており、感性豊かにそれを表現する力が子どもたちに備わってきている。

☆各種調査の結果を踏まえ、指導を工夫していきます。